



子どももたちが夢を追える環境づくりの一役

それは、「子どもたちが夢を追える環境を創ってあげるのは大人の務め」との使命感からくる思いでもあった。廃校をスポーツコミュニティ施設として新たに生まれ変わらせる取り組み。夢を夢のままに終わらせない朝西史徳(52)のチャレンジがこれから、始まる――。

(文中敬称略)

プロ野球の夢から介護事業と野球少年育成へ

自身、球児として青春を謳歌し、現役引退後も地域の少年野球の監督を務めながら、会社を営む。元プロ野球選手河原純一(52)とは川崎北高時代の同級生。河原はその後、駒大を経てドラフト1位で巨人に入団し、投手として2002年日本シリ

スポーツ

ーズでは、西武戦を制し一躍胴上げ投手に。西武、中日でもプレーした経験を持つ。

その河原に追いつけたい越せとばかりに朝西も、情熱を燃やした。そんな朝

として選んだ場所が、北海道、しかも、旭川大学だった。大学時代は主将を務めベストナイン2回、首位打者も一度経験。再び東京に戻り社会人野球では佐藤工務店に所属し、その後中日で活躍した岡本真也と一緒にプレー。いずれもプロ野球選手になることを目指し心血を注いだ。だが、やがて選手としての限界を実感する時が訪れ、やむなく引退を

代、遊撃手や二塁手として守りの要の役割を果たし、打撃を通じて野球の醍醐味を満喫してきた半生に一旦はピリオドを打った上で、社会人として新たな門出を迎えることになった。それが地域密着型通所介護事業の担い手であり保険代理店業務に携わることだった。2014年には自ら両事業部を柱とする運営会社「株スリー

川市東4条4丁目)を立ち上げた。介護事業部施設は「希望のつぼみ旭川東」として稼働させ、保険事業部は東京海上日動火災保険(株)などの代理店業務を同所でそれぞれ担っている。かといって、これらは専業にしていたわけではなかった。これらの本業と併せて取り組んできた



のが、少年野球教室だ。朝西は、河原のプロ野球時代に自主トレのパートナーを務めたが、河原は引退すると、朝西が主催した少年野球教室に講師として参加。旭川出身で横浜ベイスターズなどで活躍した杉山俊介も講師となり、少年野球の育成に力を尽くしている。

朝西は日本最北「永山バッテリーセンター」の運営・管理も担う。折に触れ、ピッチャー無し「の野球」として、野球の基礎を培う「Tボール」大会も小学生などを対象に開催してきた。朝西の母校である旭川大（現、旭川市立大）硬式野球部のコーチの傍ら、地域の少年野球チーム「東五条トリデーズ」の監督や、一昨年まで独立リーグ「愛媛マンダリンパイレーツ」北海道・東北地区の担当スカウトも務めた。いずれも将来を担う青少年が

旧雨紛中跡地に コミュニティ施設

夢を追える環境づくりに
つながる試みといえる。

冬場の練習場確保から
「UIBOOM」開設

そんな活動を惜しまず
行ってきた朝西が知った

のが、2009年に閉校した旧旭川市立雨紛中学校の跡地を活用するプロジェクト。敷地面積約6500平方メートルで、鉄筋コンクリート2階建ての校舎や体育館などがある。旭川市教育委員会が買い取り事業者を公募したところ名乗り出たのが、朝西が代表取締役のスリーアローズだった。

同社が計画する事業は「スポーツコミュニティ施設」としての運用だ。冬季屋外で練習できない球技（野球やサッカー）の屋内練習場、高齢者や青少年、障害のある人たちが冬季に運動したりリハビリする場所として稼働させていく。旭川市と地域関係者らでつくる選定委員会が提案内容を審査した上で、事業者に選ばれた。今年4月同社に売却され、スポーツを楽しくしてもらいながら、健康寿命を延ばすことに

役立てたい意向。公共性の高い事業活動を展開し地域振興に努めていく。スリーアローズとして

旧雨紛中跡地の利活用を考えるきっかけになったのが、今まで野球教室や各種野球大会を主催してきたことだ。地域の活動として少年野球の監督、母校の発展のために尽くしてきた野球部のコーチを通じて痛感したことが

「冬場の練習場の確保」。さらに野球に限定せず、ほかのスポーツも含めて雪国のハンデを克服し、スポーツを愛する市民のためのコミュニティ施設として活用したいと考案したのが、「スポーツコミュニティ施設」だった。旭川にはいくつか廃校があるが、旭川駅から車で約10分という利便性の良さも旧雨紛中にした理由。立地的には永山に旭川市立大の室内練習場があるため、区域が重なら

ない点も後押しした。今後、自由に使える部屋をつくり地域住民の会合をはじめ、体育館を利用した人たちの休憩場所、くつろげる場や情報交換できる場として提供していく考え。「雨紛中学校の卒業生などが戻って来られる場所にしたという思いもあり、大幅な改修はせず懐かしんでもらえたいいな」との思いもある。ドローンに関する資格講習でも活用される

ことが決まっている。人工芝を敷き詰めオリジナル野球体操や走り方教室も行うスポーツコミュニティ施設「UIBOOM（ウブン）」。将来的にはフィットネスジムやカイロプラクティックなども併設される見通しで、スポーツ用品の販売会、冬の運動会も催される。いずれも夢を夢のままでは終わらない取り組みが目白押しだ。（橋野）